

# MAGE 再出発

あらたなセンター & ネットワーク情報誌として

神戸大学総合情報処理センター広報委員会  
委員長 金水 敏

『MAGE』Vol.17 No.1 を、「ネットワーク特集号」としてお送りいたします。導入として、本特集を組むにあたっての経緯と、構成について述べたいと思いますが、そのまえに私の簡単な自己紹介から始めさせていただきます。

私は文学部の助教授で、国語学を専門とし、主として古典語・現代語の文法を研究しております。総合情報処理センター広報委員長が文学部から出るのは初めてのことと聞いておりますが、このことは今回の特集とも無関係ではないようです。

私の研究では大量の言語データを整理するために、80年代初めごろから計算機を利用するようになりました。当時は当然メイン・フレーム<sup>1</sup>を利用しており、総合情報処理センターのレーザ・プリンタから万葉集のデータを打ち出したり、教養部の授業でセンターの実習室を使って「じゃりんこチエ」の語彙索引を作ったりしていました。

しかしまもなくパソコンが急速に普及し、われわれの仕事はたいていパソコンで間に合うようになりました。私自身が自分のマシンを買ったのが85年ですが、そのころを境にセンターからも足が遠のき、ごぶさたの時期が長らく続く事になります。

そんな私が、最近、またセンターとお近づきになり始めました。むろん、ネットワークがらみです。私は5年ほど前パソコン通信を始め、ついでおとしから、電話回線を通じてセンターのEWSであるiclunaにつなぐようになりました。私の専門分野では他の文系の領域に比べて計算機やネットワークとのなじみも比較的深いようですが、文学部の中ではやはり少数派で、情報ネットワーク運用委員会が発足したときも、選択の余地なく、委員に出ざるを得ない状況でした。運用委員会の活動の中で、広報活動に関するレポートをまとめたご縁が、今回の総合情報処理センター広報委員長へのご推挙につながっているように理解しております。

94年9月に正式発足したKHAN（Kobe Hyper Academic Network）ですが、技術的な基盤はもちろんのこととして、学内外の皆様にも有効活用していただくために、広報宣伝活動が非常に重要な位置を占めるという認識は多くの方の共有するところだと思います。一方、現在のKHANの実質的な運営母体である情報ネットワーク運用委員会は、つい最近まで経済的基盤も事務方の正式なサポートもない教官の手弁当集団であったわけで、有効な広報宣伝を打つための手段をまったく欠いていたという状況にありました。しかし総合情報処理センター運営委員会、情報ネットワークシステム委員会ほか関係各位のご理解とご賛同を得て、KHAN運営にかかる総合情報処理センターのサポート体制が明瞭に打ち出されて以来、状況は変わったと

<sup>1</sup> 当時はもちろん「大型計算機」とっていました。

言えます。広報宣伝に限って言えば、今回のような単発的「ネットワーク特集」にとどまらず、『MAGE』は今後とも、ネットワークに関する広報を主たる内容のひとつの柱として編集していくという方針が打ち立てられました。『MAGE』は総合情報処理センター兼 KHAN の広報誌として、生まれ変わったと言ってもよいでしょう。

93 年以降、多くの国立大学で LAN 施設がインフラストラクチャーとして一応の整備を見ました。今後も、国内のネットワーク環境は急速に進展していくものと思われます。次にそれぞれの LAN の真価が問われるとすれば、技術的な側面もさることながら、そこに流される情報の質をおいてはありえないでしょう。そこで活用しなければならないのは、私のような、いや私以上に計算機に関して素人の、総合情報処理センターには縁のなかった方々のマンパワーです。このような方々に、KHAN を有益な研究・教育施設として解放し、また KHAN 自身の付加価値を高める情報発信源として KHAN に巻き込んでいくことが、神戸大学の、ひいては日本の知的状況を高度化していくための鍵となるはずです。『MAGE』はそのためにも、一部のユーザのためでなく、全学の構成員にとって有益な情報誌として生まれ変わらなければならないのだと言えるでしょう。私のような文系人間が編集を務める意義も、そこにあると考えます。

さて本号では、ネットワーク関連としては今年 1 月に行われた LAN Symposium の報告、情報ネットワーク運用委員会がまとめた KHAN Report の抄録、工学部の情報コンセント教室の紹介、ネットワーク・アプリケーションの紹介、その他セミナー、講座等の記事を収録しました。「KHAN の夜明け」(KHAN Report #1) にみなぎる、清新な熱気を感じていただければ幸いです。

先にも述べましたように、『MAGE』は今後も、誰にも分かりやすく実用的なセンター兼ネットワーク情報誌を目指して行く所存です。また、従来の発行形態にこだわらず、mosaic、gopher 等を介しての電子出版形態も展開していく計画を持っております。その中で、皆様のご意見、ご要望を積極的に反映して行きたいと考えておりますので、随時メール・学内便等を賜りますようお願い申し上げます。特に、文系・事務系の方々のご意見を歓迎いたします。

ご意見・ご要望の宛先：

総合情報処理センター

内線：2910      FAX：078-803-0193（もしくは内線 2930）

E-mail：netoffice@icluna.kobe-u.ac.jp